

小田原市教育委員会協議会会議録

1 日時 平成20年8月27日(水) 午後7時25分～午後7時44分

場所 小田原市役所601会議室

2 出席した教育委員の氏名

1番委員 山田浩子

2番委員 青木秀夫 (教育長)

3番委員 桑原妙子

4番委員 安藤實英 (教育委員長)

5番委員 横田俊一郎 (教育委員長職務代理者)

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

学校教育部長 和田豊

教育政策課長 曾我勉

学校教育課長 柳下正祐

教職員担当課長 西村泰和

課長補佐・学事担当主査事務取扱 栢沼一郎

課長補佐兼指導主事・指導担当主査事務取扱 長澤貴

(事務局)

教育政策課課長補佐・教育政策担当主査事務取扱 座間亮

教育政策課上級主査 望月啓一郎

4 議事

(1) 報告事項

① 片浦中学校のあり方について(教育政策課)

5 議事の概要

(1) 報告事項

① 片浦中学校のあり方について（教育政策課）

教育政策課長…報告事項「片浦中学校のあり方について」御報告させていただきます。

資料1をご覧ください。これまでも何度かご報告させていただいておりますが、本年1月に発足した「小田原市立片浦中学校のあり方を考える委員会」において、議論を重ね、8月25日に提言書をいただきましたので、詳しい状況などについては参考資料としてお手元にあります提言書をご覧くださいと存じます。この問題については、ちょうど1年前の9月に片浦小学校から片浦中学校へ入学する予定の10名のお子さんのうち8名が私立中学校やクラブ活動の継続を理由とした通学区域の弾力化により他の公立中学校へ進学するという連絡を受けたことに始まりました。早速、現状を把握するとともに、学校関係者、教育委員会、地域関係者で意見交換して、片浦地区の子どもたちにとって最も望ましい中学校のあり方について、協議し、検討を進めてきました。片浦中学の今後について、地域の皆さんと考えていくにあたり、教育委員会として、「① 子どもの幸せを第一に考える。」「② 地域の意見を最大限考える。」2つの基本方針で臨んできました。これまでの検討経過については、提言書の1ページの「3 検討及び経過の内容」と14,17ページにあります。片浦地区の石橋、米神、根府川、江之浦4会場での住民説明会やアンケート調査を実施して地域の皆さんや保護者の意見・要望を調査して、あり方を考える委員会で議論を重ねてまいりました。この間、あり方を考える委員の皆様には、地域の方々と様々な場面でいろいろとご議論をいただきました。あり方を考える委員会では、現在教育を受ける子どもたちのことを第一に考えるべきということで、議論を進めてきましたが、主な意見を紹介します。現在の小学6年生は、18名と近年では比較的多い人数ですが、最近のアンケート調査では、他の生徒の動向などにもよりますが、片浦中学校に進学希望者は4名のみで、進学準備もあるので早い段階で統合を決定して欲しいとのこと。小学校の保護者からは、「少人数で目の届いた教育が期待できる近くの中学校に

通わせたいが、著しく生徒数が少ない状況では教育的に不安である。」、
「今の状況では進学する中学が分かれてしまう。地域の一体感の観点から
も同じ中学に通えるようにすべき」、「交通の利便性、通学の安全性から
城山中学と統合すべき」などの意見がでています。また、中学校の保護
者からは、「現在の中学校2年生は高校受験もありこのまま片浦中で
卒業したい。」、「学習面等少人数の優れたところはあるが、多様な人間
関係を築く教育等デメリットもあり、部活動以外の理由でも通学区域の弾
力化を認めるべき。」、「地域の子どもたちが中学生でバラバラになるこ
とが問題であり城山中と統合すべき。」、「現在もそうだがこの地域の家
庭は通学費の負担が大きすぎる。」などの意見が出ています。また、地域
からは、「中学校はやむを得ないが、地域の幼児の数が減っており、小学
校が無くならないよう、今からしっかり対策を立てるべき。」「地域の活
性化が急務だ。」などの意見が出されています。7月2日には、第5回の
あり方を考える委員会で加藤市長との意見交換会を開催しましたが、学
校が無くなることへのさみしさや抵抗感はあるが、子どもたちへの教育
を考えると閉校はやむを得ない状況であるという意見が大勢でした。こ
のあと、あり方を考える委員会では2回ほど会議を開催し、8月25日
に提言書が教育長に提出されました。提言書の結論ですが、「平成22年
3月で片浦中学校を閉校し、片浦地域の学区を城山中学とする。平成2
1年度は経過措置として、城山中学校への指定変更を認める。」との内容
でございます。教育委員会としては、次の資料をご参照いただきたいと
存じますが、あり方を考える委員会から提言書の内容を踏まえ、基本方
針どおり、子どもの幸せ(教育)を第一に考えるとともに、地域の意見を
最大限に尊重してまいりたいと考えております。今後のスケジュールで
すが、学区審議会に諮問し教育委員会で議論いただき条例改正まで今年
度中に進め、来年の4月1日以降も子供たちが安心して生活ができる環
境を整えていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
また、提言書の中にもありますようにまだまださまざまな課題がありま
す。列挙いたしますと、① 通学の便の確保(通学費の支援) ② 中
学校施設の活用 ③ 地域コミュニティのあり方 ④ 地域の活性化 ⑤

小学校を含めて、児童生徒の減少による市内小中学校の適正規模等 ⑥
教職員の確保などがございますが。今後の課題を解決するに当たって今
後市役所全体で考えていきたいと存じます。以上でございます。

(質 疑)

安藤委員長…現在、1年生は2人ということですが、来年度他校へ移る希望はないので
しょうか。

教育政策課長…今のところ、再来年度に移りたいという希望を聞いております。なお、
アンケート調査では、来年度の片浦中学校への進学希望者は4名ですが、
9月1日に意向調査を小学校のほうで実施いただけるということですよ。

安藤委員長…公立中学だから、均一な教育が行われているのですが、3年生になっ
てから移るとするのは、かなり厳しいと思います。保護者がわかっている
のなら仕方ないかもしれませんが、学校側で指導してあげたらと思います。

教育政策課長…今後の予定の中で、10月くらいから、個々にいろいろ対応し、相談に
乗っていききたい、一緒に考えていききたいと思っています。

安藤委員長…3年生で移るのは、やはり子どもたちが大変だと思います。

教育政策課長…成績の面など、厳しい点があるとは思いますが。

安藤委員長…今回の通学先の変更は、学区の弾力化ではなく、特例でということですね。

教育政策課長…そのとおりです。学区審議会の中で、論議いただいて、そういう形にし
たいと考えています。

横 田 委 員…残ることもできるのでしょうか。

教育政策課長…できます。教師の数の確保のため、生徒を確保していくという考え方も
あります。人件費を市が負担するのか、県が負担するのかという問題も含
まれています。

横 田 委 員…アンケート結果をもみますと、在校生は、学校を残してほしいという声
が強いんですね。

安藤委員長…いずれにしても、方向性は大体見えたということですが、保護者の意識で
子どもが振り回されるというのは、かわいそうだなと思います。

横 田 委 員…説明会には、生徒も出席したのですか。

教育政策課長…生徒は出席しませんでした。保護者や地域の方を通じて説明はされてい

ると思います。学校では話題になっているようです。

横田委員…いずれしなければいけませんね。

教育政策課長…ただ、アンケート調査は実施しました。だいぶ厳しい意見がでました。

安藤委員長…活性化を図ってほしいという意見が挙がっていますが、日本全体がそういうことですね。ただ、夢のような話は通用しないのでしょうかね。

桑原委員…統合先との交流とは具体的に何かあるのでしょうか。

教育政策課長…例えば修学旅行など城山中学の行事に参加する等、学校ではいろいろ考えていただいているところです。

安藤委員長…運動会などは、地域でも楽しみにしているのでしょうか。

教育政策課長…地元の小中の合同開催なども考えられますが、なかなか難しいようです。

安藤委員長…クラスをまとめるバネにしようと、他校との合同開催を考えることもあるようですが、うまくいかないこともあるのでしょうかね。

青木教育長…統合するまでは、合同で、といった考えが必要だと思います。

安藤委員長…子どもにとっては難しい問題を残すでしょうね。

(その他質疑・応答なし・協議会を終了)